

「青森市財政プラン（2024～2028）ローリング版」及び「令和9年度予算編成方針」の概要

青森市財政プラン（2024～2028）ローリング版

1 財政の健全性維持のための「ローリング版」

- ◇ 国等の制度改正や毎年度の決算状況を踏まえ、「青森市財政プラン（2024～2028）」のローリングを実施。

2 財源調整のための「基金」70億円確保に向けた取組を継続

- ◇ 財源調整のための基金については、2年連続となった豪雪災害に対応するための除排雪経費や給与改定等に伴う人件費が増加したことで、令和7年度末の残高が昨年度のローリング版よりも約2億円下回り41億円に留まったものの、令和8年度以降は行財政改革などの取組の継続により基金残高を積み増すことが可能となる見込みであり、令和15年度末の基金残高は、昨年度のローリング版よりも微増となる74億円を確保する見込み。
- ◇ 現状の見通しを踏まえ、事業の厳選や有利な財源の活用のほか、スクラップ・アンド・ビルドや行財政改革の徹底、近年好調なふるさと納税等の自主財源の確保など、歳入歳出両面における地道な取組によって、可能な限り早期に70億円を確保できるよう基金残高の積み増しを図っていく。

3 「市債残高」の縮減

- ◇ 引き続き市債発行額の抑制に努め、令和5年度決算と比較して、令和10年度末市債残高（臨時財政対策債を除く）は78億円（730→652億円）の大幅縮減。

予算編成方針

1 予算編成の方向性

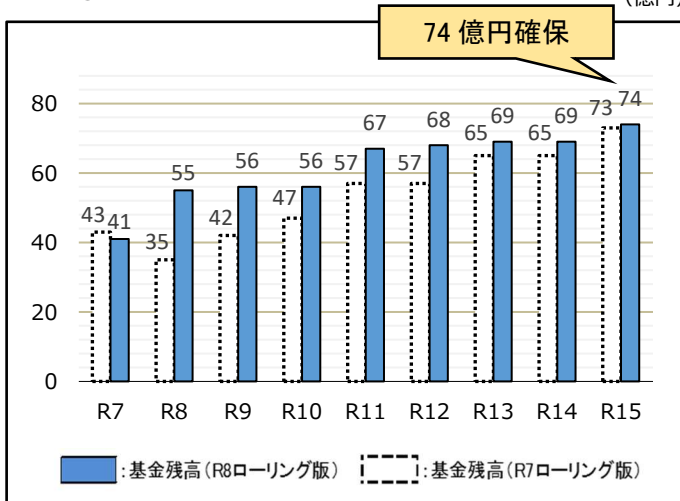
- ◇ エネルギー価格や物価高騰の地域経済への影響の長期化により、地方財政を取り巻く環境は厳しさを増している中、将来にわたって安定した行政サービスを提供していくためには、歳出全般について不断の見直しを行うとともに、市経済の発展と雇用の創出による税收確保に努め、令和15年度末の基金残高の確保や市債残高の縮減という目標を堅持し、将来世代に責任を持てる財政基盤の確立を目指し、持続可能で健全な財政運営を行っていかねばならない。
- ◇ 社会情勢の変化に迅速かつ的確に対応するとともに、本市の直面する諸課題に立ち向かうため、「仕事をつくる」「人をまもり・そだてる」「まちをデザインする」の3つの基本政策に沿った「みんなで未来を育てるまちに」の創造に向け、効果的な事業への予算の重点化を図るものとする。

2 財政の健全性確保対策として予算要求枠にシーリングを設定

- ◇ 昨今のエネルギー価格や物価高騰による影響に配慮する観点から、マイナスシーリングを行わずゼロシーリングとし、それを反映させた予算要求配分枠の設定を行う。

【グラフ①】財源調整のための基金残高の推移

(億円)



【グラフ②】市債残高の推移

(億円)

